

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

グローバル社会を生きぬく

- 1 ネットワーク 2 フットワーク 3 ヘッドワーク
3つのワークを大切にし、実行できる生徒を育てる学校

2 中期的目標

1. 学ぶ力をつける。次期学習指導要領を見据えて、生きて働く「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現等」の育成をめざす。
 - (1) Wi-Fi 環境を整備し、スマートフォンやタブレット端末を授業で活用できるようにすることで生徒の情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。
 - (2) グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。
 - (3) 生徒の学力向上と進路実現を支援するために、進路講演会及び放課後や土曜日を活用した無償・有償の講習を行う。
 - (4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。各教科の授業の指標である「桜塚教科スタンダード」のブラッシュアップを絶えず行い授業力の向上をめざす。
 - (5) 朝学（総合基礎）を充実させ、基礎的・基本的な学力の確実な定着・充実に努める。SSSC(Sakura Study Seminar Camp) [1年勉強合宿]を実施して、入学直後から自らの進路実現のため真摯に努力する態度の涵養を図る。
 - (6) 専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース [GSC] とグローバルスタディサイエンスコース [GSS]）制を生かし、生徒の学力の更なる効果的な向上を図り、第一希望の進路実現を図る。幅広い科目の学習を進んで行う態度を涵養することで、国公立大学（50名）への進学を目標とするだけでなく、高校卒業後のさまざまな進路において活用できる知識・技能や興味・関心を身につけ、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。
- ※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価の60%を向上させ65%にし、2020年度には70%をめざす。
 - (7) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。
2. 人間力をつける
 - (1) 人間関係構築の第一歩として、あいさつがさらにしっかりと行われる学校をめざし、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。
 - (2) 教育相談体制の充実。「生徒一人ひとりを大切にする」本校の教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。
 - (3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。
 - (4) 部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する
 - (1) OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。
 - (2) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。
 - (3) WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。
4. グローバルリーダーの育成
 - (1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。
 - (2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語や理数系科目を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化
 - (1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。
 - (2) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
 - (3) 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行う。分掌に位置付けられない組織（Sakura Project Team）の取組みを機能させる。
 - (4) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。
 - (5) 働き方改革の継続、ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。残業時間月平均80時間未満の厳守。
 - (6) ミドルリーダーの育成。経験の浅い教職員へのOJT等の充実を図る。
6. 個人情報等の適正管理
 - (1) 個人情報等の適正管理をめざす
 - (2) 備品等の適正管理をめざす

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学ぶ力をつける	(1)Wi-Fi 環境の整備。スマホ活用授業の展開 (2)英語 4 技能の向上 (3)進路講演会及び生徒向け無償・有償の講習実施 (4)授業改善 (5)総合基礎（朝学）の充実。SSSC の実施 (6)専門コース制の活用・充実 (7)自宅学習、自習室の活用、講習、補習の体制づくり	(1)授業においてスマートフォンやタブレット端末、電子黒板を活用した「調べ学習」「小テスト」「プレゼンテーション」を行うことで、生徒が主体的かつ協同して学ぶようにする。 (2)GSC の授業の一部について、5つの大学から Native English Teacher 等の講師を招聘し、4技能のうち Speaking 力の向上をめざす特別授業とする。GTEC を1・2年で実施する。 (3)進路講演会の充実及び教員による無償の「桜塾」、予備校講師等による有償の「オーダー講座」を実施する。 (4)授業の冒頭に「めあて」を述べ、授業の終わりに「振り返り」をすることを徹底する。各教科研究授業を行う。教員相互の授業見学を実施する。週1回の教科会により「観点別評価」に基づく授業展開・考査問題作成を行うことで、「桜塚教科スタンダード」と「シラバス」のブラッシュアップを図る。 (5)国数英の各教科が生徒にもっともつきたい基礎的学力が何であり、積極的に取り組むことで「何が身に着くか」「何ができるようになるか」を生徒・保護者に明らかにする。また、積極的に取り組まない生徒への指導・補講を行う。SSSC において高校での学習の仕方について学ぶとともに、外部講師による講演や大学（国公立）見学を行って自らのキャリアデザインをさせる。 (6)専門コースが学校全体を牽引し、学力の更なる効果的な向上を図る。 (7)スマホ・タブレットを有効活用した自宅学習の推進を図る。5:30 以降の講習受講や自習室の活用を促す。	(1)授業アンケート～教材活用「先生は用具の他、ICT 機器や役に立つ教材などをうまく使っている」70%以上 (2)受験者の50%がGTECスコア690以上（英検準2級以上）そのうちGSCの生徒は20%以上がスコア960以上（英検2級以上）。 (3)満足度80%以上 (4)生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすい」70%以上 (5)総合基礎（朝学）の上位評価「課題に意欲的に取り組んだ」90%以上 (6)センター試験において各科目とも全国平均以上 (7)スマホ・タブレットを有効活用した勉強法を紹介。5:30以降講習受講者の昨年度比2倍増をめざす。	
2 人間力をつける	(1)「あいさつ運動」の推進 遅刻数の減少 (2)教育相談体制の充実 (3)地域貢献・国際交流 (4)部活動の充実	(1)学校全体ですらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。時間を順守することの大切さを再確認する。 (2)「生徒一人ひとりを大切にする」本校の教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。 (3)地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。 (4)部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。	(1)学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率70%以上を維持（29年度75%）前年度遅刻数の1割減 (2)学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率平均4%向上（平成29年度59%） (3)年間3回以上の実施 (4)教職員向け学校教育自己診断関連項目90%以上を維持（29年度95%）	
3 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する	(1)豊中市各機関との連携、オール桜塚による支援、大学等との連携 (2)岩手県大槌高校「さくら協定」 (3)生徒も広報に参画、中学校等訪問、学校説明会実施	(1)OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。 (2)平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。 (3)WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。	(1)公的機関等と連携し、入学式・卒業式にも臨席依頼し、生徒保護者へも周知する。大学と連携し、授業等を依頼し、生徒の自己実現を支援いただく。生徒による学校教育自己診断肯定的回答70%以上（平成29年度65%）キャリア教育と進路実現に繋げる (2)年1回以上の相互訪問や生徒への趣旨説明 (3)WEB Page を月に5回以上更新する。学校説明会参加者数の増加。（平成29年約1900人）	

府立桜塚高等学校

4. グローバルリーダーの育成	(1) 国際交流、短期・長期の留学生受け入れ、海外研修などの機会の充実 (2) 専門コース制に関わる専門科目の充実	(1) 忠南外国語高校との姉妹校協定の締結。ホストファミリーの開拓。国際関係の諸機関・大学などとの連携の強化。NZ、米国、韓国での研修の実施 (2) 「課題研究」の内容の再検討と更なる充実。「英語理解」におけるネイティブを含む大学講師の活用。「第二外国語」「国際理解」など専門科目の充実	(1) 国際交流活動などに取り組み、これを肯定的に評価する生徒する生徒 85%以上 (H29 年 79.6%) (2) 授業評価における生徒意識。2 回の平均値 3.5 以上 (H29 年度の GS 科目の平均値 3.4)	
5. チーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化	(1) 全・定併置校の特色を活かし、更に有効有意な関係を構築する。 (2) 課題に対する基本的な方向性の確立 (3) SPT を活用した業務量の平準化 (4) 学び続ける組織的人材育成 (5) 働き方改革の継続、ノークラブデー、全庁一斉退庁、残業時間 (6) ミドルリーダー、経験の浅い教職員育成	(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。 (2) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。 (3) 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行う。分掌に位置付けられない組織(Sakura Project Team) の取組みを機能させる。 (4) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。 (5) 働き方改革の継続、ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。残業時間月平均 80 時間未満の厳守。 (6) ミドルリーダーの育成。経験の浅い教職員への OJT 等の充実を図る。	(1) 定時制との関係に関する質問を設け、肯定的回答 70%以上。(平成 29 年度 65%) (2) 教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率 80%以上を維持。 (3) SPT の稼働。ストレスチェックにおける全校値の低減 (4) 昨年度と同等以上の職員研修回数を確保。PTA との共催研修を企画する (5) 全職員残業時間月平均 80 時間未満 (6) 校内研修を実施し問題意識を共有する。教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率+5% (29 年度は 64.1%)	
管理 6. 個人情報等の適正	(1) 個人情報等の適正管理 (2) 備品等の適正管理	(1) 個人情報等の適正管理をめざす (2) 備品等の適正管理をめざす	(1) 個人情報の適正管理に関する研修を年 1 回以上実施する (2) 各室の備品等管理簿(配置図含む)を作成し、引き継げる体制を整える	